



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
市議団ニュース

ご相談は
お気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

この時期の増税と原発 に市長も懸念を表明

福田明議員の一般質問から

2012年第2回
定例6月議会

6月11日におこなわれた市議会本会議での
福田明議員の質問の要旨を紹介します。

消費税と原発、 2つの大問題

〔福田明議員〕消費税の引き上げを強行すれば国民の

暮らしも、日本経済も破綻することが強く懸念されている。また、野田総理は福島の大飯原発の再稼働を判断した。これは国民の命と安全を危険にさらす最悪

の判断である。2つの大問題についての市長の率直な感想をうかがう。

〔豊田稔市長〕消費税の増税よりも議員削減や行革が先だと考える。原発の収束すらできないなかでの消費税増税は私も困惑している。大反対だ。衆院選挙で国民の審判を受けてから導入してもよいのではないかと理解している。

大飯原発の再稼働については、判断する前に原子力の専門委員会をつくりあげ、十二分に福井県ならびに周辺自治体と協議してやるべきである。

災害復興住宅の 見通しは

〔福田議員〕国からの復興交付金（第2回）の茨城県への配分額は44億6千万円で、10市町に配分された。

北茨城市には26億円余で、県内交付額の58%以上になる。この交付税額の事業内容についてうかがう。

〔鈴木庄一市長公室長〕災害公営住宅整備事業に取り

組む。市内3ヶ所で、平瀨の鹿野原団地に隣接する私有地に2階建3棟36戸、旧大津小跡地に2階建3棟36戸、中郷の旧上桜井市営住宅跡地に5階建1棟30戸の建設を予定している。

〔福田議員〕災害公営住宅の建設については、被災された仮の住宅に避難している約300世帯の方々にアンケート調査を実施したが、その結果はどうであったか。

〔市長公室長〕実施件数は263件。うち災害公営住宅の入居希望件数は148件で、65才以上の夫婦世帯や単身世帯が入居希望者の61%を占めている。

〔福田議員〕災害公営住宅には、いつ頃入居できる見込みなのか。

〔市長公室長〕25年度には建設工事が始まっていくことから、平成26年3月までは完了し、被災者の方々が入居できる。

意欲ある業者は すべて応援を

〔福田議員〕中小企業ブ補助金は、震災で被災した中小企業の施設や設備の復旧と整備を支援するため

に、事業費の75%を補助（国50%、県25%）するもので

非常によい制度である。

24年度の第3次募集は2グループ65社、約10億円を申請し、その採択結果が今月に出ることになっている。ところが、現状ではかなりの数が採択されないことが予想されている。

事業再開の意欲のある業者はすべて応援することこそ、本当の復興支援ではないか。市は国・県に対して予算を増額し要望にこたえられるよう働きかけるべきである。

〔石田菜緒子副市長〕国に対して県知事が5月末に積極的に要望をおこなったと聞いている。その推移を見ながら市として要望するかどうか考えていきたい。

「地域医療一筋」 市立病院新院長

〔福田議員〕植草新院長は、

あいさつの中で「地域医療一筋に30年間、やってきたことに信念をとおもって任にあたっていききたい」と述べられている。非常に心強く思う。院長の考える新病院の今後のあり方や地域医療について自由に大いに語っていただきたい。

〔植草義史市立総合病院長〕総合病院をつくるには一般

衆院めざす福田明市議に 激励あいつぐ

市長から

市民から

先の定例市議会において、福田明議員の一般質問を受けて答弁に立った豊田市長は、冒頭で「衆院選挙への立候補を表明している福田明議員は、日本国を憂い、わが国民を憂い、高邁なる理想のもとに立候補するのだろうと理解しており、北茨城全市民が拍手をもって送るだろうと感じる。今後ともその気持ちを絶やすことなく頑張り続けてほしい」とエールを送りました。

また、議会の傍聴に来ていた市民からも「長年にわたって市議会で活動してきた福田議員の姿が、衆院選の後から見れなくなるとすれば寂しい気もするが、新たな立場でがんばってほしい」と激励の言葉があいつぎました。

「みなさんの期待に応えられるよう全力をつくす」と福田明議員は決意を新たにしています。

には10万人の人口が必要といわれる。北茨城市は5万人いないわけで、成り立たないことになる。

しかし、心臓カテーテルの機器があり、脳外科の手術もやっていけないかというところではない。総合診療をやりながら、専門診療もやるというスタイルでいくことができる。

じっさい、脳血管障害や意識障害の患者で、脳外科でなければ診れない患者は5%くらい。あとの95%は、

他の科目でも対応できる。私は県立中央病院で総合診療科を20年間やってきたが、99%うちの科で診てきた。

いま県立中央病院は、水戸線以北で日製病院に次ぐ規模で、ベット数は半分以下だが、救急車の搬入が増えている。また県全体でも、他の医院からの紹介患者は大学病院に次いで多い病院になっている。

同じようなことを北茨城でもできればいいと思う、骨を埋めるつもりでした。



梅雨に映える

シルバーセンターで、タイミングよく草刈り作業を実施。（大北川堤防のあじさいロード）